

平成30年度
学校評価報告書

四天王寺学園高等学校
四天王寺学園中学校
学校評価検討委員会

目次

1. はじめに（校長）	-----	2
2. 建学の精神	-----	4
3. 学校教育目標	-----	5
4. 自己評価集計結果分析	-----	6
5. 学校関係者評価	-----	18

はじめに

四天王寺学園高等学校
四天王寺学園中学校
校長 檀上 慎二

本校では授業をはじめとした種々の教育活動に真摯に取り組んでいるところですが、生徒がより良い教育を受けるためには、私たちの教育活動を客観的に評価し、検証することがまず必要です。その評価・検証の上に立ち、教育活動を向上させるための支援・改善が浮かび上がり、支援・改善を行うことで本校の教育水準の向上を図ることができるからです。

また、学校運営の質に対する保護者の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待されます。

これらのことから、学校の教育活動やその他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く公表していくことが求められます。

学校評価は、以下の3つを目的として実施するものであり、これにより生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指すための取り組みです。

- ① 各学校が、自らの教育活動やその他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民などから理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力により学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

*学校評価の定義

- (1) 各学校の教職員が行う評価【自己評価】
- (2) 保護者や地域住民などの学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3) 学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家等を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況もふまえて、教育活動やその他の学校運営の状況について、専門的視点から行う評価【第三者評価】

この定義に基づいて、本校の学校評価とは具体的には

- (1) Plan (目標設定) : 前年度の評価活動の反省を踏まえた、重点目標の設定
- (2) Do (実行) : 重点目標の具体的な取り組みおよびその内容
- (3) Check (点検) : 学校教育自己診断の結果と分析
- (4) Action (行動) : 評価結果の検証と次年度目標への反映

のPDCAサイクルに基づいて教育活動を展開していくことです。これらを実践する事によって、「学校評価ガイドライン」に掲げられている上記の目的を達成していきます。

本校は平成26年度4月に学校評価検討委員会を設置し、「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価として、自己評価と学校関係者評価を実施いたしております。平成30年度は、平成30年11月から12月にかけて行った生徒対象の授業評価アンケートと教員対象の自己評価を分析し、更にこの自己評価を後援会の方にも検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「学校関係者評価」を真摯に受け止め、建学の祖、聖徳太子の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

建学の精神

学校法人四天王寺学園は、聖徳太子がすべての衆生を救わんとする大乘仏教の精神を具現化するために、推古元年（西暦593年）に四箇院の制度を取り入れた四天王寺を建立されたことに始まります。四箇院とは、貧しい人々を救済する悲田院、病人の治療にあたる療病院、薬を分け与える施薬院、仏を敬い、仏教の尊い教えを守って諸悪をなさず、善行を修め、仏の智恵をさとり、知識や技能を修得する敬田院をさします。

この四箇院の制は、1400余年連綿と受け継がれ、悲田院、療病院、施薬院は社会福祉法人四天王寺福祉事業団が継承し、敬田院の教育事業は学校法人四天王寺学園が引き継ぎ、今日に至っています。敬田院は、仏に帰依し悪をなさず他者のために善行を修め、自己の実現に努める人間形成の場です。すなわち「他者や物事の内に潜む善さを信じ、その実現を願うところに自己の善さの実現も可能となる（帰依渴仰）。そのためには人々や物事の善悪を思慮し、相互に省みることで悪を断ち、善の実践に努める（断悪修善）。そのなかで共々の善さを実現することが可能となる（速證無上）。あなたにとっての善さは私にとっての善さであり社会への貢献は相互の善さを具現化する営みに他ならない。そのための思慮と省察の積み重ねにより他者と共に己の計らいを超えた生命のもとで生きる意味を覚りゆくところである（大菩提處）。」とされており、今も建学の精神として受け継がれています。

また、大正11年に吉田源應大僧正によって創立された「天王寺高等女学校」に始まるその長きにわたる中等教育、高等教育機関としての歴史と伝統のなかで、人間の人格形成に多大な影響を及ぼす青年期の教育に寄与することが、社会に対して一層の貢献となることを確信し、四天王寺学園高等学校・四天王寺学園中学校が設立されるに至りました。

学校教育目標

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、すなわち、「他者や物事の内に潜む善さを信じ、その実現を願うところに自己の善さの実現も可能となる。そのためには人々や物事の善悪を思慮し、相互に省みることによって悪を断ち、善の実践に努める。そのなかで共々の善さを実現することが可能となる。あなたにとっての善さは私にとっての善さであり社会への貢献は相互の善さを具現化する営みに他ならない。そのための思慮と省察の積み重ねにより他者と共に己の計らいを超えた生命のもとで生きる意味を覚りゆくところである。」である。

菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割である。

学園生徒・教職員の日々の活動は次のとおりである。

- (1) 朝な夕なガレリアにおいて、お釈迦様誕生のレリーフに向かって礼拝する。
- (2) 仏教聖歌を斉唱する。
- (3) 『般若心経』を読誦する。
- (4) 学園訓を斉唱する。
 - 一、 和を以て貴しとなす
 - 一、 四恩に報いよ
四恩とは 国の恩 父母の恩 世間の恩 仏の恩なり
 - 一、 誠実を旨とせよ
 - 一、 礼儀を正しくせよ
 - 一、 健康を重んぜよ
- (5) 豊かな知識が、豊かな心に繋がるよう仏教教育を取り入れている。
- (6) 将来の高等教育に向けて、豊富な中等教育のカリキュラム・シラバスを編成している。
- (7) 「人と人との和」「人と物との和」「人と仕事の和」など、その実践に教科活動はもちろん、学校行事・クラブ活動に積極的に取り組んでいる。

建学の精神の具現化はもとより、学園訓が掲げる真摯な教育方針の徹底を学校教育目標とする。

平成30年度自己評価集計結果分析

➤ 本学園教育方針

- 日本のリーダーとして活躍できる強い精神力の育成
- 規律正しく、厳しさを備えた人格の形成
- 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力の養成

➤ 今年度重点目標 【PLAN】

本学園の教育活動において前項の建学の精神と教育理念、および上記の教育方針で掲げた事項を実現することとは、即ち、「高い知性と、丈夫な心身を備え、人との和を尊重し、社会の発展に貢献できる人物の育成」に他ならない。

同時に、この人物像は、大人が、そして社会が、未来を担う子どもたちに望む姿でもある。そのような希望に沿える教育活動を行っていくべく、今年度は次のA～Eの重点目標を掲げることとした。

- A (人間教育・仏教教育)：人としての誠実な在り方の追求と周囲との信頼関係の構築
- B (社会適応能力の育成)：目標を見定め、目標に向かって進むための教育活動の推進
- C (生活指導)：挨拶の励行・校内の美化・規律正しい生活習慣の確立
- D (学習指導・進路指導)：生徒の夢・希望を実現するための進路指導
- E (広報活動・保護者対応)：広く教育活動を公開し、保護者の信頼と期待に応える学校づくり

➤ 評価アンケート実施要領

今年度重点目標A～Eの達成度を検証するために、各重点目標達成に通じる実行項目について、以下のような形で評価アンケートを実施した。

尚、経年比較をして、より良い方向へ進んでいることを確認するため、アンケート質問紙は前年度とほぼ同じものを用いている。故に、次頁以降の結果報告においては、質問紙のままではなく、各重点目標との関係性から実行項目を整理し、併せてその評価結果を掲載することとした。そのため、同じ実行項目が複数回出てくることがある。

- (1) 実施対象： 回答教員数 (26名)
回答生徒数 (307名)
- (2) 実施形態： 質問紙法
- (3) 評価： 1 (あてはまる)、2 (ややあてはまる)、3 (あまりあてはまらない)、4 (あてはまらない) の4段階
- (4) 評価点の算出式： $5 \times (\text{「あてはまる」の}\%) + 4 \times (\text{「ややあてはまる」の}\%) + 2 \times (\text{「あまりあてはまらない」の}\%) + 1 \times (\text{「あてはまらない」の}\%)$

➤ 重点目標毎の実行項目・集計結果・分析

アンケート結果として、各実行項目に対する評価、結果分析、次年度以降への反映・対策を下表にて示す。尚、実行項目の欄の「★」は、生徒回答分であることを示す。

1) 重点目標Aに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 30年度	評価点 29年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.4	4.6	57.7%	34.6%	7.7%	0.0%
2	人権教育に関して生徒の意識を高めるように指導している。	4.0	4.4	34.6%	50.0%	11.5%	3.8%
3	相手を思いやる態度を育て、相互の信頼を深めることで良好な人間関係を築くよう指導している。	4.5	4.6	73.1%	15.4%	11.5%	0.0%
4	アンケートや個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応をおこなっている。	4.5	4.5	61.5%	34.6%	3.8%	0.0%

2) 重点目標Bに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 30年度	評価点 29年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.4	4.6	57.7%	34.6%	7.7%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	4.7	4.6	73.1%	23.1%	3.8%	0.0%
3	生徒が、自ら計画を立て、行動できるように指導している。	4.2	4.3	34.6%	57.7%	7.7%	0.0%
4	目の前にいる一人ひとりの生徒に向き合い、支援している。	4.4	4.5	69.2%	19.2%	7.7%	3.8%
5	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	4.5	4.7	65.4%	26.9%	3.8%	3.8%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	評価点が0.4ポイント下がっている。昨年度より評価項目[1]が減少し、[3]、[4]が増加した結果である。	学校での人権教育は社会人育成の場として重視されるべきものである。改めて学校生活のあらゆる場面において人権尊重の姿勢を育成するように努めたい。
3	今年度も高い評価点を維持し続けている。90%近くの教員が人間関係の構築のための教育に高い関心を寄せている。	和の精神に基づき、社会生活を送る上で不可欠な思いやりや信頼といった心の教育ができています。今後も更に続けていきたい。
4	昨年度と同じ高い評価点を維持し続けている。評価[3]が減少し、[2]の割合も増加している。	生徒との情報共有を行うことで、生徒にとって学校が良き学びの場となるように、今後もいじめ問題の防止・根絶に向けて取り組んでいきたい。

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	95%以上の教員が、会議や委員会に積極的な参加をし、高い評価点を維持している。	次年度以降もこの積極性を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議や委員会に臨みたい。
3	昨年度と同じ評価点を維持しているが、評価[1]の割合が減少している。	生徒の自立心・主体性の育成は、最重要課題の1つである。1つの取り組みとして、手帳や電子機器を利用した丁寧な指導を全教員で心掛けていきたい。
4	昨年度と同様、高い評価点を維持し続けている。	クラス担任による個人面談や、放課後学習において生徒との交流を一層大切にし、集団と共に一人ひとりへの対応を引き続き、積極的に取り組みたい。
5	90%以上の教員が、教員間での連携に努めようと努力している。	教員間の連携を更に密にし、組織的な教育活動を行い、生徒のより良い成長に寄与していきたい。

6	文化祭・体育祭・宿泊学習などの行事を通して、生徒の学校生活を充実させている。	4.2	4.7	42.3%	46.2%	11.5%	0.0%
7	授業にアクティブ・ラーニングやICT(情報通信技術)を活用している。	4.0	4.0	23.1%	69.2%	3.8%	3.8%
8	★予習をしてから授業に臨んでいる。	2.9	3.2	22.1%	24.7%	25.1%	27.1%
9	★授業後に復習をしている。	2.5	2.7	9.2%	26.3%	36.6%	27.0%
10	★すぐに授業が受けられるように準備(教科書・プリントなど)している。	4.4	4.6	65.3%	25.9%	6.0%	2.7%
11	★授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。	4.1	4.0	41.8%	41.6%	13.3%	3.2%
12	★授業でわからなかった点は質問している。	3.3	3.1	27.6%	31.2%	25.9%	14.9%

3) 重点目標Cに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 30年度	評価点 29年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.4	4.6	57.7%	34.6%	7.7%	0.0%
2	校内の美化および生徒の健康管理に注意し、安全な学校生活が送れるよう配慮している。	4.2	4.5	50.0%	38.5%	7.7%	3.8%
3	挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。	4.5	4.6	61.5%	34.6%	3.8%	0.0%
4	部活動を通して、生徒の学校生活を充実させ、社会性を身につけさせることができている。	4.3	3.9	50.0%	38.5%	11.5%	0.0%
5	授業時間を厳守し、生徒にも同様の指導をしている。	4.5	4.5	53.8%	42.3%	3.8%	0.0%

6	80%以上の教員が行事を通じての教育の意義を実感できている。	次年度も学校行事と学校生活のより一層の充実を図り、生徒の満足度を更に上げていきたい。
7	80%以上の教員がアクティブラーニングやICTを活用し、授業を行っている。	より多くの教員が生徒の学習意欲を引き上げるためにも研修の充実を図りたい。
8	昨年度よりも、予習をして授業に臨んでいる生徒が更に減少しており、目標点にも到達していない。	予習を行うことでの効果や見通しを感じさせ、多くの生徒が予習に取り組むように指導したい。
9	昨年度よりも、復習をして次の授業に臨んでいる生徒が減少しており、目標点にも到達していない。良好な状態とは言い難い。	復習を自ら進んで行う指導や、復習小テスト等を行うことで既習事項の確認やその定着を図りたい。
10	昨年度と同様に高い評価点を維持し、90%以上の生徒が、授業の準備を適切に行っている。	授業に対して前向きな姿勢が窺える。生徒の向学心を更に高められるように、授業マナーの指導と授業内容の充実を図りたい。
11	評価点が目標点に到達しており、80%以上の生徒が、授業に集中できている。	生徒が授業に対して自ら考えて、集中して学習できるように今後も授業内容に工夫を凝らしていきたい。
12	昨年度と同様に、目標点に到達していないが、評価はやや向上している。	授業中、休み時間や放課後など、生徒が質問の時間を確保できるように配慮したい。

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	90%近くの教員が、校内の保健・衛生面への配慮ができていると考えている。	今後も校内美化の徹底と清掃指導を丁寧に行っていきたい。また、手洗い・うがい・換気の指導も続けて行い、健康面への注意も促していきたい。
3	95%以上の教員が生徒の生活習慣の確立に努めている。昨年度に引き続き、高い評価点に到達できている。	今後も挨拶の励行や時間厳守を遵守させ、基本的な生活習慣が崩れることのないように、生徒一人ひとりに目を配りながら対応していきたい。
4	昨年度より評価数値が向上し、目標点に到達できている。	指導体制や活動状況などの確認を行い、より良い部活動環境を教員と生徒でつくっていききたい。
5	95%以上の教員が、時間を大切にす姿勢を生徒に示すことができている。	時間を厳守することは社会人として最も大切なことであり、今後も努力を続けていきたい。

6	生徒の問題行動に対して組織的に対応できている。	4.0	4.2	46.2%	34.6%	11.5%	7.7%
7	生徒指導は『教員全員で』という意識を持ち、情報の共有を適切に行っている。	4.1	3.8	53.8%	26.9%	11.5%	7.7%

4) 重点目標Dに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 30年度	評価点 29年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.4	4.6	57.7%	34.6%	7.7%	0.0%
2	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	4.3	4.0	61.5%	23.1%	15.4%	0.0%
3	健康・安全に対する意識を高めるよう、機会をとらえて情報を提供している。	4.0	4.1	46.2%	34.6%	7.7%	11.5%
4	進路指導が計画的に行われており、進路希望を実現しようとする意識を高めている。	3.2	4.3	15.4%	38.5%	38.5%	7.7%
5	生徒の進路選択に役立つように適切な情報の提供や資料作成に努めている。	3.7	4.4	23.1%	50.0%	23.1%	3.8%
6	必要に応じて予習・復習・提出物の状態を把握し、指導している。	4.5	4.5	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
7	提出物・小テストを通じて、各生徒の課題を学年で共有し、解決につなげている。	4.3	4.1	42.3%	50.0%	7.7%	0.0%
8	生徒一人ひとりの到達度に関して、適切な評価基準に基づく評価が行われている。	4.1	4.3	38.5%	50.0%	7.7%	3.8%
9	授業研究を十分にしている。	4.3	4.1	46.2%	46.2%	7.7%	0.0%

6	昨年度と同様に、80%以上の教員が問題行動に対して組織的に対応できている実感を持っている。	生徒の健全な成長という目標の下で教員間の結束・連携のより一層の強化を図りたい。問題そのものの指導のみならず、機会ある毎に全生徒への啓発も行っていきたい。
7	評価点が昨年度より 0.3 ポイント上がり、目標点に到達できている。	次年度も、学年所属教員間、そして全教員での連携の下で、情報の共有を適切に行うことで、全教員が生徒指導に取り組めるようにしたい。

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	評価点が昨年度より 0.3 ポイント上がっており、80%以上の教員が本学園の施設・設備に満足している。	次年度も引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
3	評価点が昨年度より 0.1 ポイント下がったが、目標点に到達している。	養護教諭による保健便りの発行など、健康や安全に関する情報提供を今後も適宜行い、生徒の意識向上に繋げていきたい。
4	評価点が 1.1 ポイントも下がり、目標点に到達できていない。	次年度は初の卒業生を出す年であり、進路指導の重要性がより一層高まっている。生徒の希望を実現させるべく、学校全体で改善に向けて取り組んでいきたい。
5	評価点が 0.7 ポイント下がり、目標点に到達できていない。	次年度はより具体的な進路の資料提示、進路指導 HR や進路説明会等の機会を多く持ち、生徒への進路指導をより一層丁寧に行っていきたい。
6	評価[3] [4] が 0% という良好な状態である。	課題等の確認は各生徒の理解度・習得状況の把握の重要な機会であり、今後も個々の機会を一層大切にしたい。
7	今年度も評価点が昨年度より 0.2 ポイント上がっている。良好な状態である。	各生徒の課題を把握・共有し、その解決に向けて組織的に取り組めるように、より良い指導体制を築くべく努めたい。
8	評価点は昨年度よりも 0.2 ポイント下降しているが、目標点に到達できている。	人を評価する立場にある者として慎重さをもって、適切な評価を行い、その後の生徒の成長に繋げてもらえるように声掛け等も行っていきたい。
9	評価点が昨年度より 0.2 ポイント上がっている。良好な状態である。	様々な取り組みの中で多忙ではあるが、互いに思いやりを持って勤務し、全教員が授業を一番大切にできるゆとりをつくり出せるように努めたい。

10	★予習をしてから授業に臨んでいる。	2.9	3.2	22.1%	24.7%	25.1%	27.1%
11	★授業後に復習をしている。	2.5	2.7	9.2%	26.3%	36.6%	27.0%
12	★すぐに授業が受けられるように準備（教科書・プリントなど）している。	4.4	4.6	65.3%	25.9%	6.0%	2.7%
13	★授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。	4.1	4.0	41.8%	41.6%	13.3%	3.2%
14	★授業でわからなかった点は質問している。	3.3	3.1	27.6%	31.2%	25.9%	14.9%
15	★授業の開始、終了時間は定刻通りである。	4.4	4.5	63.6%	26.1%	8.0%	2.1%
16	★授業中の説明の声は十分に聞こえている。	4.7	4.7	80.3%	14.3%	3.9%	1.6%
17	★先生の説明はわかりやすい。	4.3	4.3	58.4%	29.3%	8.9%	3.3%
18	★板書・プリントなどは工夫されている。	4.2	4.3	54.4%	32.1%	10.0%	3.4%
19	★先生の熱意が感じられる授業である。	4.4	4.4	60.9%	28.8%	7.5%	2.8%
20	★興味・関心がわき、もっと学びたいような授業である。	3.9	3.9	40.6%	37.7%	15.1%	6.5%
21	★先生は生徒の質問を大切にしている。	4.4	4.4	62.5%	28.3%	6.9%	2.2%
22	★授業の進む速さは理解するのにちょうどよい速さである。	4.1	4.2	52.0%	31.7%	10.4%	5.9%

10	昨年度よりも、予習をして授業に臨んでいる生徒が更に減少しており、目標点にも到達していない。	予習を行うことでの効果や見通しを感じさせ、多くの生徒が予習に取り組むように指導したい。
11	昨年度よりも、復習をして次の授業に臨んでいる生徒が減少しており、目標点にも到達していない。良好な状態とは言い難い。	復習を自ら進んで行う指導や、復習小テスト等を行うことで既習事項の確認やその定着を図りたい。
12	昨年度と同様に高い評価点を維持し、90%以上の生徒が、授業の準備を適切に行っている。	授業に対して前向きな姿勢が窺える。生徒の向学心を更に高められるように、授業マナーの指導と授業内容の充実を図りたい。
13	評価点が目標点に到達しており、80%以上の生徒が、授業に集中できている。	生徒が授業に対して自ら考えて、集中して学習できるよう、今後も授業内容に工夫を凝らしていきたい。
14	昨年度と同様に目標点に到達していないが、評価はやや向上している。	授業中、休み時間や放課後など、生徒が質問の時間を確保できるように配慮したい。
15	90%近くの教員が、授業の開始時刻・終了時刻を守っている。	時間厳守は秩序ある学校生活のベースであり、引き続き、この良好な状態を保つべく努力したい。
16	95%近くの教員が、自身の声で授業内容の伝達をしっかりと行えている。	教師として当然のことではあるが、引き続き、授業内容に熱を込めて伝える努力をしていきたい。
17	高い評価点を維持している。生徒が現在の教員の説明で授業内容を理解できている。	生徒全員が分かる授業を目指し、更に研鑽を積み、生徒の発達段階に応じた、より良い授業を行っていきたい。
18	昨年度と同様に85%以上の生徒が、授業における教員側の工夫を感じ取っている。	引き続き、より多くの生徒に学ぶ楽しさ、知る喜びを感じてもらえる工夫を凝らしていきたい。
19	90%近くの生徒が、授業にかける教師の熱意を感じている。	引き続き、授業中の良い緊張感のある雰囲気大切に、熱意ある授業を心がけたい。
20	75%以上の生徒が興味・関心を感じながら授業に参加できている。	より多くの生徒が学習に意欲を持てるように、授業の更なる工夫を行うと同時に、生徒個々が抱える問題にもしっかりと目を向けたい。
21	昨年度と変わらず高い評価点を維持できている。90%以上の生徒が、質問への対応に満足している。	引き続き、適切な形で質問を受け、答えられるように、授業中や放課後などで時間を設定するようにしたい。
22	昨年度と変わらず高い評価点を維持できている。85%近くの生徒が、授業の進度を適切であると感じている。	習熟度別クラス編成の成果と考えられ、引き続き、生徒の習熟段階に応じた授業展開を工夫していきたい。

5) 重点目標Eに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目 【DO】	評価点 30年度	評価点 29年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.4	4.6	57.7%	34.6%	7.7%	0.0%
2	防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める努力ができています。	4.3	4.4	38.5%	57.7%	3.8%	0.0%
3	生徒の校内安全(不審者対応・事故発生時の対応等)について何をすべきかを認識している。	3.8	4.4	34.6%	42.3%	19.2%	3.8%
4	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている。	4.4	4.5	57.7%	34.6%	3.8%	3.8%
5	保護者への連絡や情報公開を適切に行っている。	4.3	4.2	46.2%	50.0%	0.0%	3.8%
6	学校見学などを通して、情報公開のための努力がなされている。	4.6	4.7	65.4%	30.8%	3.8%	0.0%
7	学校行事に際して、近隣住民への説明が十分になされている。	3.3	3.6	15.4%	42.3%	38.5%	3.8%
8	ホームページ等を活用し、教育活動や生徒の学校生活についての情報発信に努めている。	3.6	3.9	15.4%	57.7%	26.9%	0.0%
9	個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている。	4.5	4.5	57.7%	38.5%	0.0%	3.8%
10	入学者数確保のための諸活動に積極的に取り組んでいる。	4.3	4.2	53.8%	34.6%	7.7%	3.8%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	今年度も高い評価点を維持し続けており、90%以上の教員が、建学の精神を理解し、教育活動を行っている。	建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	95%以上の教員が、生徒の防災意識の向上に寄与できていると実感している。	現在の日本では、震災遭遇の可能性の想定は必須であり、他の災害への対応も含めて、安全を確保する行動をとれるように確実に指導・訓練を行っていききたい。
3	評価点が0.6ポイント下がり、目標点に到達できていない。	不審者対応研修、救命法講習などでの学びを、現場での素早い判断・行動として適切に活かせるようにしていきたい。
4	今年度も高い評価点を維持し続けているが、昨年度よりも評価[1]の割合が減少している。	学級担任のみならず所属学年の教員間で情報を共有し、適切な連絡や対応を保護者に行っていけるように注意していきたい。
5	昨年度よりも評価点0.1ポイント上がった。85%以上の教員が、保護者との連携を適切にとるべく努力している。	保護者と教員が協力し合って、生徒の指導に当たることができるように努力していきたい。
6	今年度も高い評価点を維持しており、非常に良好な状態である。	学校見学会や入試説明会などの個々の機会を有効に活用して、本校の教育活動について周知を図る努力を続けたい。
7	評価点が、昨年度より0.3ポイント下がり、今年度も目標点に到達できていない。評価[3]の回答が増加している。	今後も学校と地域との連携強化に努め、近隣の方々の理解の下で円滑に教育活動を行えるように努めたい。
8	評価点が、昨年度より0.3ポイント下がり、今年度も目標点に到達できていない。評価[1]の回答が減少し、評価[2]の回答が増加している。	教科ブログや学年通信の発行なども含めて、引き続き積極的な情報発信を心がけ、本校の良さを伝えていきたい。
9	今年度も高い評価点を維持できている。	個人情報の扱いには十分な注意を払い、教育活動に支障を来たすことがないように努めたい。
10	90%近くの教員が、入試関連の広報活動に関心を持ち、行動していることが窺える。	私学として特色ある学校づくりに勤しみ、少子化の進む中でも、より多くの生徒に入学を志望してもらえるように可能な努力を続けていきたい。

➤ 総括 —重点目標毎の概況・反省と今後の展望—

<p>A (人間教育・仏教教育) 人としての誠実な在り方の 追求と周囲との信頼関係の 構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標に関しては、すべて目標点に到達しており、良好な評価となっている。 ・人権教育に関しては、教員間で意見交換を行い、今後も様々な人権問題について学び、生徒のより良い人権意識の向上に努めたい。 ・いじめ問題に関しては、「いじめ防止基本方針」に基づき、引き続き、いじめ問題の予防・撲滅に努めたい。
<p>B (社会適応能力の育成) 目標を見定め、目標に向か って進むための教育活動の 推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標に関しては、教員の自己評価は昨年度よりも評価点は上がっているが、生徒の授業評価は3項目が下がり、目標点未到達の項目が複数ある。次年度に向けて、より丁寧に、且つ謙虚に見直しを行い、向上を図りたい。 ・手帳や電子機器を利用して日々の計画・実行・反省の指導などを行い、自己管理能力のある生徒の育成を期したい。
<p>C (生活指導) 挨拶の励行・校内の美化・ 規律正しい生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標に関しては、評価結果から概ね良好な状態と言えるが、今後もより一層の向上を図りたい。 ・基本的な生活習慣の確立の指導は、社会人育成の場として確実に全うしなければならない点である。また、部活動を通して、学校生活の充実を図り、社会性を身につけさせる指導に努めたい。 ・保護者との連携については、クラス保護者会や保護者個別面談を通じて情報交換を行い、一層の緊密化を図り、共に生徒の健やかな成長をサポートするというスタンスを保ちつつ、信頼関係を築き合えるように努めたい。
<p>D (学習指導・進路指導) 生徒の夢・希望を実現する ための進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標に関しては、教員の自己評価において昨年度より評価点が下がり、目標点未到達の項目が複数ある。次年度に向けて、丁寧に、且つ謙虚に見直しを行い、向上を図りたい。 ・健康管理の力も適切に身につけられるように、引き続き、情報を提供するなど、病気やケガに対する注意喚起を行っていききたい。 ・多忙な中であっても、全教員が教科指導にもっと専念でき、指導力の向上を図れる環境をつくりたい。 ・進路指導に関して、学校独自の進路指導計画に則って全教員が指導に当たれるようにし、学年間での取り組みのばらつきの解消を図り、各生徒の個性や能力に応じた進路指導を行っていききたい。 ・アクティブ・ラーニングの研修や大学生による進路講話等、有益な取り組みを今後も継続していききたい。
<p>E (広報活動・保護者対応) 広く教育活動を公開し、保 護者の信頼と期待に応え る学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標に関しては、評価結果から概ね良好な状態と言えるが、項目3・7・8の情報発信の点についての評価が下がり、目標点未到達となっている。次年度以降も更なる努力を続け、保護者と社会の信頼と期待に応え得る学校であり続けたい。

平成30年度 学校関係者評価

四天王寺学園高等学校

四天王寺学園中学校

後援会会長 辻尾真弓

A (人間教育・仏教教育) について

項目1・2の評価点が昨年度より下がっている点について、学校の根幹にかかわる大切な項目であるため、より一層の取り組みを期待します。

「建学の精神」を日々の教育の中にどのように取り入れ、反映させればよいのか、子供たちに何をどう伝えていくべきなのか等、指導者によって温度差やバラツキが生じることのないよう、より具体的な指針を明示することが必要だと考えます。また子供たちが人権に対する高い意識を常に持ち続けるためには、日頃から継続的な取り組みを積極的に実践することが重要だと思います。併せて、その取り組みによって子供たちの理解が深まっているのかどうか、確認、検証をすることも大切だと思います。年に一度のこのアンケートの中で、子供たちの反応（受け止め方や感じ方等）を問う項目を追加することを提案いたします。

項目4について、いじめの問題は「絶対に許さない」という学校全体の強い取り組み姿勢が、毎年の高い評価につながっていると思います。今後も引き続き、未然防止策や対応策を徹底していただき、子供たちが安心して楽しく学校生活を送れる環境づくりをお願いしたいと思います。

B (社会適応能力の育成) について

項目3・4について、学校生活全般（生活面、学習面）において、子供たちが自ら考え、計画し、行動に移すことが出来る力を育てることは、将来社会に出て様々な活動をしていくうえで必要かつ重要なことであると考えます。それは子供たちの中に達成感や充実感を生み、自信にもつながると思います。先生方には、子供たち1人ひとりに対して、個性や特性に応じた適切な助言、きめ細やかな指導を行い、子供たちの「自主・自立」を促していただくようお願い致します。

項目5について、先生方の異動が多い中、学年や教科等の枠を超えて教師間の情報共有を図り、子供たちへの対応はもちろんのこと、学校運営、教育活動、その他全般においても適時適切な対応がなされることを希望します。

項目8・9・12について、学習の基本であり、理解の定着を図るうえでも必要不可欠な「予習、復習、質問」という3点が、子供たち自身も不足していると感じていることが分かります。自覚しながらもなかなか実行出来ない、という子供たちの現状を放置することなく、十分な分析と実態に即した対策を早急に講じるとともに、保護者への情報提供や連携も密にさせていただきたいと思っています。

C（生活指導）について

項目 2・3・5 について、集団生活の中で、規則やルールを守って規律正しい学校生活を送ること、挨拶の励行や共用の場の清掃や美化など、子供たちがその必要性や重要性を理解し、1 人ひとりが集団の一員であるという自覚と責任を持って行動出来るよう導いていただきたいと思います。また社会人の基本ともいえる「時間管理」についても、子供たちが今のうちから身につけておかなければならない大切な習慣の一つであると思います。引き続き、先生方には模範的存在となっていただくとともに、「遅刻」等については家庭とも連携しながら、時間厳守の徹底を図っていただきたいと思います。

項目 4 について、部活動は自らの興味ある分野の力をのばす絶好の場であるとともに、日頃からこつこつと努力することの大切さを学び、成功や失敗の経験を通じて達成感や充実感、困難に立ち向かっていく強い精神力など多くのことを身につけることが出来る貴重な場であると思います。また同学年だけでなく、先輩や後輩との仲間づくりや適切な関わり方を学ぶことで社会性を習得する機会でもあります。

今後とも部活動を積極的に推奨していただき、活動の活性化や活動範囲の拡大、更には新しい部の発足などに努めていただきますようお願い致します。

D（学習指導・進路指導）について

項目 4・5 について、進路指導に関する項目が昨年度より大きく評価点が下がっている点は看過出来ません。本校は外部の高校への受験者も多く、それぞれの進学希望先に応じた計画的な学習指導や進路指導、必要な情報や資料の提供など、きめ細やかな対応が必要です。

最も信頼を寄せる先生方の「進路希望を実現しようとする意識」が低下し、目標点にも達していないという結果は、大変衝撃的で残念と言わざるを得ません。学校としてこの状況をどう分析し、今後どのような対策を講じるのか、誠意ある対応を望みます。

加えて、来年度は本校を初めて卒業する高校 3 年生の大学入試も控えており、未知な部分が多々ある中、生徒、保護者共に様々な不安を抱えています。更にその翌年には大学入試制度の大幅な変更があり、それに関する情報不足等による多くの不安もあります。

受験対策には、系列校で培ってきたノウハウや手腕をフルに生かし、学校をあげて万全を期していただきたいと思います。そして全員が安心して受験に臨み、実力を存分に発揮してそれぞれの目標を達成することが出来るよう、最善を尽くしていただくことを切にお願い致します。

E（広報活動・保護者対応）について

項目 2・3 について、子供たちは多くの時間を自宅や保護者から離れた学校内で過ごします。いつ何時発生するかもしれない自然災害や、万が一の緊急事態に備えて、先生方には日頃から避難訓練や異常時を想定したシミュレーション等を行い、安全確保のための迅速かつ適切な判断と速やかな避難指示、誘導に努めていただくようお願いしたいと思います。また子供たちに対しても、いざという時に慌てず冷静に行動が出来るよう、心構えや自分の身を守るための行動等について、指導や訓練を行っていただきますようお願い致します。

項目 7・8 について、昨年度同様に評価点が目標に達していませんが、学校周辺、近隣の方々の理解、協力を得て、良好な関係を築きながら円滑な学校運営を図っていただくことを望みます。

また私たち保護者が共感し、賛同する本校の建学の精神や教育理念、特色ある様々な教育活動が、様々なツールによって広く世間に情報発信され、より多くの方々からの共感と賛同を得ることを期待します。そして社会貢献度の高い学校として認められ、愛される学校へと発展していくことを心から願います。

平成30年度 学校評価

令和元年6月25日発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園

四天王寺学園高等学校

四天王寺学園中学校

校長 檀上 慎二

監修
編集

教頭 橋本 治
学校検討委員会
委員長 川井 将広

